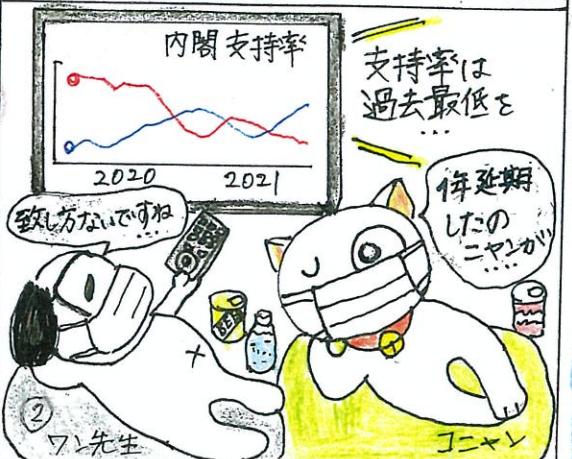


防災通信

Vol.1 「石は語る」

男鹿市立船川保育園 鎌田 美萌



自然災害伝承碑とは…

地震、津波、洪水、噴火といった大規模な自然災害の状況や教訓を後世に伝え残すために作られた災害碑・慰靈碑・記念碑等の碑やモニュメントである。(Wikipediaより)

ー伝承碑から、わかることー

男鹿地震(昭和14年)5月1日 14時58分 M6.8 [死者27名 住家全壊 479戸]

当時の人々は「山津波」が来たと言っていたそうです。(山→海へ避難)
船川地区でも大規模な斜面崩壊、水田の液状化、地形の隆起などが見られ、その後の人々の生活にも大きな影響がありました。

◆全壊率60%以上

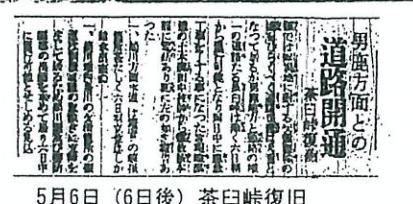
五里合村：高谷、谷地、琴川、安田、木曾



震災の翌日(5/2)土崎港から飲料水30石が船3隻で運ばれたという記録がありましたが(道路・インフラが壊滅)

現代のようにふんだんに車機もない中、必死に復旧作業が行なわれたんだ。

図-4 (2). 船川町人口の大崩壊



5月6日(6日後)茶臼峰復旧 東京大学地震研究所集報より

へ被害の大きかった北浦相川地区の2年後へ



現実の後年二たし變一貌地



教えて頂いた方

菅原寿氏(前市危機管理監) 三浦恵子氏(船川保職員)

参考資料

秋田県の地震・津波災害と防災減災教育 秋田大学地方創生センター 水田敏彦教授

H30年の西日本豪雨で、100年以上前に起きた水害を伝える石碑があのものの、メッセージが十分に活かされなかったことから、13年ぶりに地図記号化されました。

地震供養塔
(寒風山)

現在は5基あり、一番古いものは文化17(1810年)の地震の供養碑とされている。(菅江直澄の記録もある)



へ世相がよくわかる
当時のポスターへ



!!!氣意の後鏡クセ示
縣 田 秋

この年の5月12日にノモンハン事件そして9月には第二次世界大戦日本中が戦争に向かっていったことがよくわかるね。

*1~4引用
「昭和十四年男鹿地方震災誌」
出版 秋田県

復興後の様子(泉台地区)

復興が進む姿が紹介されることは国民の士気高揚にも繋付けられていました。

今年度、避難訓練担当になり、以前から関心のあった「自然災害伝承碑」について調べてみました。单なる側面はありますが、当時の人々が災害を乗り越え、後世にメッセージを残してくれたことは、現代の私たちにもたくさん教訓と勇気を与えてくれます。